

国際会議等参加旅費補助金報告書

2007年 10月 1日  
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 早稲田大学・博士後期課程

氏 名 橋本 空 ㊞

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2007 世界行動療法認知療法会議 2007
公式ホームページ URL	<a href="http://www.wcbct2007.com">http://www.wcbct2007.com</a>
開催期間	2007年 7月 11日 ～ 2007年 7月 14日
旅行期間	2007年 7月 11日 ～ 2007年 7月 17日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Spain・Barcelona・CCIB – Centre de Convencions Internacional de Baecelona スペイン・バルセロナ・バルセロナ国際会議場
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	橋本 空 (早稲田大学)、宗 未来 ((独)国立病院機構 久里浜アルコール症センター)、渡部 卓 ((株) ライフバランスマネジメント、早稲田大学)、織田 正美 (早稲田大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The effect of computer supported CBT program on aggression of Japanese University Students コンピュータ支援型 CBT プログラムの大学生の攻撃性に対する効果
補助金額	200000 円 (内訳 航空機運賃 205460 円 )

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

## 国際会議等参加報告書

2007年7月11日に予定通りスペインのバルセロナに到着し、翌12日より世界行動療法認知療法会議2007(WCBCT2007)に参加いたしました。会期は11日から14日までとなっておりますが、初日は開会式とワークショップのみが行われ、主なプログラムは12日からの3日間で行われました9時より18時頃まで、認知行動療法に関するものを中心とした多くのシンポジウム、ラウンドテーブル、オープンペーパー、パネルディベート、招待講演、ポスター発表などが行われました。そのうちポスター発表の件数はプログラムによりますと3日間で824件ありました。日本からの参加者も多くみられました。

私は13日の12時から14時まで、“Challenging Behaviour & Personality Disorders-English Programme”という分類の中で、ポスター発表を行いました。インターネットを利用した認知療法プログラムの大学生の攻撃性(怒り、敵意、身体的攻撃、言語的攻撃)に対する低減効果を検討した研究について発表いたしました。在籍時間2時間の間に10数名の参加者の方が説明を聞きに来て下さり、お互いの専門領域、私のポスターの内容に関するを中心とした活発な議論をすることができました。

このようなコンピュータ支援型の心理療法やセルフヘルプ・プログラムに関しては、シンポジウムや講演をはじめ、その他多くの個人発表でも取り上げられており、欧米を中心として議論すべきテーマの一つとなっていました。その背景には、経済的、地理的な理由から、セラピストと対面して治療や介入を受けることが難しい人々にも問題改善の機会を与えられることへの期待をこうした取り組みにもっている一方で、効果を検証した研究の数が不十分であることや、匿名性やネット上での人間関係に起因する倫理上の問題への検討が不十分であることなどに対する不安や疑問があるのだと感じました。

この度、本国際会議に参加し、参加者と議論させていただく中で、こうした発展の過渡期にあるものをテーマとして研究を進めていくためには、単にその効果の向上を迫るのではなく、それに付随して発生し得る倫理上の問題や技術上の問題などについてもより詳細に検討していかなければならないことを実感しました。またその他にも現在世界で注目されている研究テーマについて知ることができたり、普段論文や著書で勉強させていただいている第一線でご活躍中の先生方に実際にお会いしてご意見をうかがう機会を持てたりしたことも大変大きな収穫となりました。こうした経験を今後の研究に有意義に活かしていきたいと考えております。

そして今回の国際会議への参加にあたり、多大なご支援をしてくださった日本心理学会およびご担当の先生方に深く感謝いたします。誠にありがとうございました。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2007年 11月 9日  
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名  
同志社大学大学院文学研究科心理学専攻博士課程後期課程  
氏 名 岡田佳奈 (印)

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	The 37th annual meeting of the Society for Neuroscience 北米神経科学学会第37回大会
公式ホームページ URL	<a href="http://www.sfn.org/am2007/">http://www.sfn.org/am2007/</a>
開催期間	2007年 11月 03日 ~ 2007年 11月 07日
旅行期間	2007年 11月 02日 ~ 2007年 11月 08日 (1日短縮)
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	San Diego Convention Center, San Diego, USA. アメリカ合衆国・サンディエゴ・サンディエゴコンベンションセンター
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	岡田佳奈・岡市広成 同志社大学文学研究科(日本学術振興会)・同志社大学文学部
発表題目 ※正式名と日本語訳	Functional cooperation of the medial septum and hippocampus is necessary for spatial memory, but not for episodic-like memory 内側中隔と海馬による機能的連携は空間記憶に必要ながエピソード記憶には不要である
補助金額	150,000円 (内訳 航空運賃 )

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

## 国際会議等参加報告書

北米神経科学学会第 37 回大会に出席し、本研究課題についての研究発表をポスターセッションにおいて行ったほか、学会会期中に開催されたレクチャーやシンポジウム、ワークショップ、ポスターセッションに参加し、神経科学や行動実験パラダイムにおける有益な知見を得た。

特に、ラットにおけるエピソード記憶の特性とその検証方法について様々な意見交換を行うことができた。ラットを用いてエピソード記憶形成を評価できるようになれば、ラットの空間記憶形成システム研究やヒトの記憶研究に寄与すること大であると考えます。

また、ラット海馬の生理学的行動学的特性をテーマとしている研究者とも情報交換ができた。海馬下位領域間の神経連絡や海馬と他の関連領域との神経連絡には、特に抑制性の神経投射に関して、まだ解明されていないところも多く、投射についての新しい知見を順次取り入れることは、海馬関連神経ネットワークを考察する上で極めて重要なことである。

今回空間記憶における機能的連携についてポスター発表した、内側中隔と海馬に関して、その電気生理学的な関係に関する発表があった。中でも私の発表と関連が深かったものは、Hangya, B. et al による内側中隔と海馬の相互関係を電気生理学的側面から分析した研究であった。これは、内側中隔と海馬の双方向性の神経活動関係を述べたものである。以上のもばかりでなく、その他の多数のこの期間に得られた知見や議論は、本研究を今後進める上で有力な情報を提供すると思われる。

北米神経科学学会は現在の会員数 38,677 人にのぼる大規模な学会であり、本年次大会の参加者も 31,000 程度であった。また企業展示も 581 件ほどあった。約 25 件のレクチャーと数多くのシンポジウム、ワークショップ、ポスター発表は、ヒトや動物を用いた神経科学に関連する研究についてのものであった。

特に海馬はその中でも注目される部位であり、統合失調症やアルツハイマ病と海馬機能の関連に関する発表も見られた。更に、グリア細胞(astrocyte)の活動が神経細胞活動に深く寄与しており、神経科学研究においてグリア細胞活動を取り扱うことが重要になってきていることを示唆するレクチャーや発表があった。動物の脳機能画像研究の報告も見られた。ラットの Morris 型水迷路課題中の海馬 CA1、CA3、歯状回における細胞数の変化を MRI によって検知する試みがあった。行動課題中のラットの神経活動を非侵襲的に明らかにできるようになれば、非常に有益な知見が提供されると思われるが、この試みはその萌芽かもしれない。その他、海馬下位領域の神経活動に関する報告が数多くみられた。CA1、CA3、歯状回といった主要な下位領域ではそれぞれ特定の場所に反応する場所細胞が確認されているが、それぞれの下位領域の特に場所細胞活動や嗅内皮質の格子細胞がそれぞれ異なる発火特性を持ち、またそれらの発火が相互に関係している様子が報告された。

- 1 この報告書は帰国後 2 ヶ月以内に提出して下さい。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2007年 11月 21日

(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 聖泉大学人間学部・准教授

氏 名 田積 徹 ㊞

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会 議 名 称 ※正式名称および 日本語訳	The 37th annual meeting of the Society for Neuroscience 第 37 回北米神経科学学会年次大会
公式ホームページ URL	<a href="http://web.sfn.org/am2007/?CFID=6381429&amp;CFTOKEN=12128869">http://web.sfn.org/am2007/?CFID=6381429&amp;CFTOKEN=12128869</a>
開 催 期 間	2007年 11月 3日 ～ 2007年 11月 7日
旅 行 期 間	2007年 11月 2日 ～ 2007年 11月 9日 (発表が最終日になり変更)
開 催 場 所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	Convention Center, San Diego, U.S.A. コンベンションセンター、サンディエゴ、アメリカ合衆国
発 表 者 氏 名 ※全員の名前と所属 日本語表記	田積徹 1, 3・堀悦郎 2, 3・小野武年 2, 3・西条寿夫 2, 3 1 聖泉大学人間学部人間心理学科、2 富山大学大学院医学薬学研究部システム 情動科学講座、3 科学技術振興機構, 戦略的創造研究推進事業
発 表 題 目 ※正式名と日本語訳	Both gaze direction and head orientation modulate activity of monkey amygdalar face neurons (視線と頭の方向はサル扁桃体顔ニューロンの活動を調節する)
補 助 金 額	150,000 円 (内訳 往復の航空運賃)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

## 国際会議等参加報告書

【学会の様子】2007年11月3日～2007年11月7日にアメリカ・サンディエゴで開催された第37回北米神経科学学会年次大会に参加・発表を行った。本学会の年次大会に参加するのは2回目であり、前回と同じ開催地ということでホテルでの生活など戸惑いもなく学会に集中できた。学会参加者数は最終日前日の17:00時点の発表で26,548人(一般会員14,425人、一般非会員2,530人、学生会員6,768人、学生非会員2,825人)であった。この参加者数から見ても明らかなように、世界中の生理心理学や神経科学の研究者がこの学会に一堂に集まっており、大学院時代に読んだ論文の著者を間近に見ることも多く、多くの刺激を受けた。

【発表内容】近年、表情や視線、頭の方から他者の情動状態や注意の方向を認知(社会的認知)して、円滑な社会的コミュニケーションを行うことに関係している脳内神経機構の解明を目指した研究が行われており、扁桃体が重要な役割を果たすことが示唆されている(Baron-Cohen et al., 2000)。社会集団を形成するマカクザルもヒトや同種他個体の視線と頭の方を追従することができると報告されているにもかかわらず、マカクザルの扁桃体がこれらの方向の認知に関与することが神経生理学的に明らかにされていない。

本学会では、視線と頭の方異なる複数の人物モデルの顔画像を用いた視線方向の遅延非見本合わせ課題遂行中のサル扁桃体からニューロン活動をタングステン電極による侵襲的手法により記録した結果を報告した。主な結果として、顔に選択的に応答した44個(顔ニューロン)のうち、21個は視線と頭の方の方向に識別的に応答した。そのうち15個の応答は視線と頭の方の方向に対して交互作用を示した。また、人物、顔の方、視線の方のいずれの要因が顔ニューロン全体の応答と関係するのかという観点から、顔ニューロン44個の応答強度について因子分析を行い、頭の方ごとに各視線方向の平均値を求めたところ、顔ニューロンの応答は頭の方によって調節されるが、サルを見ている視線に対して強く応答した。これは頭と視線の情報が扁桃体で統合され、自分に向けられた視線の検出に扁桃体が関与していることを示唆する。

【成果】本研究を発表したことで以下の2つの成果があった。①社会的認知の1つである頭や視線方向に基づいた他者の注意方向の認知における扁桃体の役割を調べた本結果は、社会的コミュニケーションにおける扁桃体の役割をニューロンレベルの情報処理様式からアプローチすることを意味し、他のアプローチを用いて社会的コミュニケーションの神経機構の解明に取り組んでいる研究者と包括的に議論が出来た。②社会的コミュニケーションに障害を呈する自閉症患者では扁桃体に解剖学的異常があることが報告されているが、本研究によって他者の注意方向の認知に対する扁桃体の情報処理様式を報告したことにより、自閉症患者に特異的な扁桃体の情報処理様式を探っていくための包括的な基礎的データを世界に向けて発信することができた。

【指摘された問題点と今後の課題】本研究で報告した顔ニューロンの応答は、社会的認知ではなく、情動的要素の処理に関係している可能性があるため、そのあたりをどのように分離していくかは重要な問題であるとの指摘を受けた。また、上側頭溝(STS)にも視線方向に識別的な応答を示すニューロンが存在することが報告されているが、側頭葉と扁桃体での視線方向の認知における機能的役割の分離を同時記録などで実証していく必要があるとの指摘を受けた。

国際会議等参加旅費補助金報告書

2007年 12月 4日  
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名 同志社大学トータル・ヒューマンケア・  
サポート研究機構 特別研究員  
氏 名 柳井 修一 ㊞

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	Neuroscience 2007 (神経科学学会)
公式ホームページ URL	<a href="http://www.sfn.org/am2007/">http://www.sfn.org/am2007/</a>
開催期間	2007年 11月 3日 ~ 2007年 11月 7日
旅行期間	2007年 11月 2日 ~ 2007年 11月 8日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	San Diego Convention Center, California, USA (アメリカ カリフォルニア州 サンディエゴ会議場)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	Shuichi Yanai & Hiroshige Okaichi (Doshisha University) 柳井修一・岡市広成 (同志社大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	The effect of dietary restriction and aging on hippocampal neurogenesis and learning ability in rats (学習能力と海馬神経新生に及ぼす食餌制限と加齢の効果)
補助金額	150,000 円 (内訳: 航空券 150,000 + 宿泊費 50,000)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

## 国際会議等参加報告書

日本心理学会の国際会議等参加旅費補助金を受け、Neuroscience meeting 2007 (米国神経科学会)に参加した。Neuroscience meeting は今年で 37 回を迎える学会であり、今年度は 11 月 3 日から 7 日までの 5 日間、カリフォルニア州サンディエゴ会議場で開催された。また、Neuroscience meeting は世界でも有数の規模を誇る学会であり、例年 11 月上旬に大規模な国際会議場を会場として行われる。今大会はサンディエゴで発生していた折からの山火事の影響で例年より参加者、発表件数とも少なかったが、それでも参加者は 3 万人以上、発表件数は 1 万 6 千件以上であった。

今大会における発表内容は以下の通りである。

加齢に伴い、海馬における神経新生は減少し、学習能力は衰えることが知られている。本研究では、若齢期に開始した長期食餌制限が海馬神経新生と学習能力に及ぼす効果を報告した。ラットが 2 ヶ月に達したときに自由摂食群と食餌制限群の 2 群に配分し、食餌制限群には以降の体重を自由摂食群の体重の 60%に維持する量の餌を毎日与えた。これらのラットが 3、4、6、12、18 ヶ月齢に達したとき、各群から 5 匹ずつのラットをランダムに選出し、モリス型水迷路課題と片道式能動回避課題を行った。課題終了後、50mg/kg の 5-bromo-2'-deoxyuridine (BrdU) を 5 日間連続で腹腔内投与し、新生神経細胞の定量化を行った。その結果、二種の行動課題および新生神経細胞数において、食餌制限の効果は認められなかった。しかしながら、12 及び 18 ヶ月齢のラットはその他の月齢のラットよりも学習課題の遂行が劣ることが示された。さらに、歯状回における新生神経細胞も加齢に伴って減少することが明らかになった。身体的、心理的側面における食餌制限の抗加齢効果が多くの研究で報告されているが、本研究では食餌制限は加齢に伴う学習能力の衰え、また海馬神経細胞の産生に影響をもたらさないことが示唆された。

Neuroscience meeting の参加者の大半は学会名の通り神経科学の科学者であり、先進的な研究が数多く報告されていた。特に目立って多く報告されていたのは、遺伝子のノックアウトに関する研究である。これらの研究の中でも特定の遺伝子の欠損が及ぼす行動課題への影響を検討したものが多かったが、行動課題の実験計画に不備のある研究も少なくなかった。実験計画や統計処理を始めとする行動科学分野の専門知識の提供を望む神経科学の研究者も多く、心理学と他分野の研究者が積極的に関係を構築し、共同で研究を進めていく必要性を再認識した学会であった。

また、学術プログラム以外で注目すべき点として、大会参加者が学会公認の公募情報を閲覧可能なブースが設置されていた点であろう。Neurojobs と命名されたこのブースにはコンピュータ端末が数十台並び、大会参加者であれば自由に公募情報を閲覧することが可能であった。中には Neurojobs 限定の公募もあり、数多くの若手研究者がブースを訪れていた。国内学会でもこのような公募情報を閲覧可能なブースが設置されれば、研究者にとっては学会参加の意義が高まり、学会運営側にとっては学会参加者の増加が見込まれるのではないだろうか。

前述の通り Neuroscience meeting は大規模な学会であるため、会員情報は全てコンピュータ管理されている。大会前に送付されるものはバーコードの記載された予約参加章のみである（希望者はプログラムを郵送してもらうことも可能）。受付で参加章に記載されたバーコードを読み取るだけで、プログラムを受け取ったかどうか、また年会費や大会参加費の支払い状況が確認できる。また、年会費は併設されたブースでバーコードを読み取るだけで支払いをすることができる（クレジットカード情報を事前登録しているため、カードの提示も不要）。多くの国内学会では大会事務局と学会事務局が併設されているが、大会参加者の立場からすると、学会員番号等で一元的に管理をするシステムのほうで混乱が少なくて良いだろうと感じた。

今学会では海外の研究者と交流、最新の研究発表を聴けたことはもちろん大きな成果だったが、国内の学会ではほとんど会うことが無い日本人研究者と再会し、互いの研究の進捗状況を報告することができたこと、またその場所が米国で行われた神経科学会であったことは非常に感慨深い。



# 国際会議等参加旅費補助金報告書

2008年 3月 12日  
(西暦で記入のこと)

日本心理学会理事長 殿

所属機関・職名

氏 名 最上 多美子 ㊞

下記のとおり国際会議参加旅費補助金の使用報告をいたします。

会議名称 ※正式名称および 日本語訳	2008 International Counseling Psychology Conference 2008年国際カウンセリング心理学会大会
公式ホームページ URL	<a href="http://www.icpc2008.org/">http://www.icpc2008.org/</a>
開催期間	2008年 3月 6日 ～ 2008年 3月 9日
旅行期間	2008年 3月 6日 ～ 2008年 3月 10日
開催場所 (国・都市・会場) ※現地名綴りおよび 日本語表記	United States, Chicago, Illinois, Hilton Chicago (米国イリノイ州シカゴ ヒルトンシカゴ)
発表者氏名 ※全員の名前と所属 日本語表記	Tamiko Mogami, Ph.D., Tottori University Faculty of Medicine, Kaori Wada, M.A., McGill University, Sayaka Machizawa, Psy.D., The Chicago School of Professional Psychology, Carolyn Zerbe Enns, Ph.D., Cornell College (最上多美子・鳥取大学医学部、和田香・マックギル大学、サヤカ=マチザワ・シカゴ心理専門学校、キャロライン=ザーブ=エンズ・コーネル大学)
発表題目 ※正式名と日本語訳	Women at different stages of international career development (国際的なキャリア発達の異なる段階における女性)
補助金額	150,000円 (内訳 米子⇄シカゴ航空費 121,840円、宿泊費 28,160円)

- 1 会議プログラムの発表者氏名・題目が記載されたページのコピーを添付して下さい。
- 2 申請書に記した事項とこの報告書で事項に相違のある場合(旅行期間や発表題目の変更など)は、その旨を該当事項欄に明記して下さい。

## 国際会議等参加報告書

### 【概略】

国際カウンセリング心理学会大会は、主として American Psychological Association の Division 17 Society of Counseling Psychology により企画された。現在 American Psychological Association は、米国内で多様化する文化が心理学に与える影響とともに、心理学の国際的な側面を重要視しており、米国人心理学者の国際的な活動の活性化と、米国外で活動する国際的な心理学者の活動の促進を図っている。カウンセリング心理学はわが国では比較的新しい領域であるが応用心理学の一領域であり、職業ガイダンスや精神衛生運動を母体として発展した分野である。臨床心理学と共通点を有するが、カウンセリング心理学は、人間の健康な側面の重要視、生涯発達の観点、予防・教育的な介入方法を特徴としている。

国際カウンセリング心理学会大会は、国際的な学際面を前面に押し出しており、ヨーロッパ、中近東、ロシア、アジア、アフリカ諸国から多彩な参加者を得た。また、開催地がシカゴであったことから、ウィスコンシンやミズーリといった米国中西部からの参加者が顕著であった。合計参加者は 1400 名を超えた。

米国の心理学会大会としては比較的小規模であり、カウンセリング心理学という特定の分野の国際面を強調した大会であったことから、筆者にとっては非常に密度の濃い意見交換が可能であった。特に台湾や韓国をはじめとするアジア諸国の参加者、また米国人であっても米国以外の国で居住・就労経験のある心理学者と意見交換を行ない、国際的共同研究の計画素案を立てることができたのは有意義である。

### 【発表】

筆者はシンポジウム「Women at different stages of international career development」をコーネル大学のザーブ＝エンズ教授らとともに企画し、座長として研究テーマの提案、論文の執筆に中心に関わった。シンポジウムは北米で博士課程を修了した女性心理学者のキャリア発達に影響を与える要因を論じており、キャリア発達の異なる段階を①現役博士課程大学院生の観点 (Wada Kaori, McGill University) から「A psychological career in North America or in one's homeland? Perspective of a graduate student」として、②出身国に戻った心理学者の観点 (Tamiko Mogami, Tottori University Faculty of Medicine) から「Perspectives on building a career in one's homeland」として、③米国に在留する心理学者の観点 (Sayaka Machizawa, Chicago School of Professional Psychology) から「Perspectives on building a career in North America」として順番に発表し、最後に早稲田大学で 2006 年から 2007 年にかけて国際教養学術院客員教授であった Zerb-Enns 教授 (Cornell College) からのコメントを得た。論文は、女性のキャリア発達、心理学者の専門性における国際的な相違点、比較文化心理学をテーマとしていた。心理学者の研究・臨床場面での活動がシステミックな文化差異 (例 個人主義対集団主義、実証主義対ロマン主義) や、女性のキャリア発達に顕著な問題点 (例 パートナーの選択、出産、介護) により影響を受けていることが議論された。フロアからは、香港や韓国の状況について意見が得られた。

### 【関連した他の学際活動】

発表内容に関連した演題のワーキンググループ「Psychological practice on women and girls: Global perspectives」に参加し、各国で活躍する心理学者と、教育・研究・臨床場面での主として女性を対象とした心理学の実践に関して論じた。American Psychological Association の同名の倫理ガイドラインの国際的な適性を検討し、米国で開発された心理的介入法、倫理ガイドライン、教授法、教材が他の文化でどのように修正され、用いられる必要があるかを議論した。